令和の交流 幅広く深く

慶長遣欧使節団 スペイン到着410年記念

ハポン・ハセクラ後援会 10月訪問の参加者募集

支倉常長ら慶長遣欧使節団のスペイン到着410年を記念して、国際交流団体ハポン・ハセクラ後援会（仙台市）が10月、「令和遣欧使節」を組織してスペイン、イタリアを訪ねる。メンバー50人程度を募集している。

＊　＊

令和使節の日程は10月16日から9日間。慶長使節の足跡をたどり、スペインのコリア・デル・リオ市では使節の子孫とされる「ハポン（日本）」姓の人々と交流する。団長は支倉常長家14代当主の正隆さん。

令和使節は3グループで構成。グループAは宮城の伝統文化を愛する幅広い県民が対象で20人程度を募る。グループBは両国の企業との取引を希望する宮城県内の5社程度を募集、コリア・デル・リオ市とイタリアのチビタベッキア市で、各市主催の「ジャパンウイーク」で商談に参加する。

グループCは新たに組織する混声合唱団「はせくら」のメンバーとして現地の合唱団と合同コンサートを行う。ソプラノ、アルト、テナー、バス各4～5人。

後援会事務局は「商談も組み込むことで、交流がより継続的になる。宮城の特産物をぜひ売り込んでほしい」と話す。

申し込みは後援会ホームページで受け付ける。締め切りは今月31日。応募多数の場合は選考を行う。参加費はグループAが1人60万円。グループB、グループCは問い合わせに個別対応する。連絡先はメール japon.hasekura@gmail.com

国宝　支倉常長像

ローマ近郊の港湾都市チビタベッキアに立つ支倉常長像＝2015年

能登で震度5強 被災地 残る倒壊リスク

公費解体急務 手続きと工程課題

能登半島地震の被災地を3日、最大震度5強の揺れが直撃し、傾いたままになっていた家屋が倒壊した。住民は危険と隣り合わせの状況で、公費解体が急務であることが改めて浮き彫りになった。能登ではさらなる人口減少の懸念もあり、防災の専門家は効率的な解体を進めつつ、地震に強く魅力的なまちづくりを進める必要があると指摘する。

■申請間に合わず

「とどめを刺された」。3日、輪島市の中谷博之さん(54)は倒壊した自宅をぼうぜんと見つめた。元日の地震では、高齢の母と暮らす自宅が「くの字形」に曲がり、全壊判定に。無事だった1階部分は今回の地震でつぶれ、2階部分が道路側にせり出した。次第に傾く建物に危険性を感じて公費解体を申請していたが、間に合わなかった。

石川県は全半壊した建物を自治体が所有者に代わり撤去、解体する公費解体を、2025年10月までに完了させるとしている。対象は約2万2500棟を想定。これまでに計約1万6千棟の申請を受け付けたが、解体が完了したのは、二次被害が懸念される建物への「緊急公費解体」を含めても5月29日時点で383棟にとどまる。

課題となるのは複雑な手続きと工程だ。所有者が死亡したり、関係者が複数にわたったりする場合でも、解体には原則として全員の同意が必要となる。住民の意思決定後も、がれきの分別や業者の宿泊場所確保など、作業の着手までに多くの時間がかかるという。輪島市の担当者は「住民からも遅いと指摘を受けている」と苦悩する。

環境省と法務省は、迅速化のため、全体が倒壊するなど明らかに建物としての機能を失っている場合、所有者全員の同意がなくても市町の判断で解体できると関係自治体に通知した。

被災自治体も危惧する。全国からの応援職員派遣が縮小傾向にあり、昨年5月と今年1月に大地震に見舞われ、二重被災に苦しむ珠洲市では、今回は市職員だけでなく、ボランティアらの協力を得て高齢者や要配慮者の見回りに当たった。泉谷満寿裕市長は「マンパワーは今のところ大丈夫だが、さらに重大な被害が起きると問題が生じる」と懸念を示した。

■負けないまちに

輪島市、珠洲市を含む奥能登地域4市町は人口減少が進んできた。県が3日発表した推計によると、5月1日時点の人口は5万2613人で、1月1日時点から2600人減った。地震が拍車をかけているとみられる。

東京都立大の中林一樹名誉教授（都市防災）は、人口減を抑え回復するためにも、申請をしていない被災者に公費解体を促すだけではなく、元日や今回の地震で壊れなかった建物の耐震性を確認するとともに、復興には耐震性を高めた「地震に負けないまちづくり」が必要だと強調する。「海の幸や里山の自然に恵まれた能登ならではの魅力を生かし、若い世代が暮らし続けたいと思う復興プランを示すことが大事だ」と話した。

1月の地震で傾き、3日朝の震度5強の揺れで倒壊した家屋＝3日午前、石川県珠洲市

各種エアコンクリーニング 徹底洗浄!
1台13,200円(税込)～※台数割引あり
クリーニング タカノ Fresh and Beautiful
0120-79-9029 ナットク クリーニング
(月～金 10:00～17:00)
本社／仙台市太白区茂庭字人来田東12-1

米ボーイング製 宇宙船軌道入り

ISSへ初の有人飛行

【ニューヨーク時事】米航空宇宙大手ボーイングの新型宇宙船「スターライナー」が5日午前（日本時間同日夜）、南部フロリダ州のケープカナベラル宇宙軍基地から打ち上げられ、予定の軌道に入った。今回が初の有人試験飛行で、成功すれば来年にも国際宇宙ステーション（ISS）への人員輸送手段として本格運用が始まる。

今回の飛行では、米航空宇宙局（NASA）の男女計2人の飛行士が搭乗。6日正午すぎ（同7日未明）、